あの娼婦は魔女？　『孤児院での割礼』

魔衣

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
　このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
あの娼婦は魔女？　『孤児院での割礼』

【Ｎコード】
Ｎ４５１１ＢＰ

【作者名】
魔衣

【あらすじ】
　ある国で割礼された娼婦の女の子から衝撃的な話を聴く・・・・！

そこは東南ア○アの某国の孤児院。

ここでは少女達が将来娼婦にならないように
少女達の性器の一部クリトリスと小陰唇を切り取る

水浴びして来たばかりなのがわかる濡れた黒髪は肩までの長さ。
褐色の肌をした健康そうな１５歳くらいの少女が施設の一室に連れてこられる。
既に説明は終ってる。自分が何の為に何をされるのか。しかし何故クリトリスをきると娼婦にならないのか分からない。だが身寄りの無い少女には逆らう事が出来ない。怯えている。
「準備してください。」女性職員促された「い、いやです。なんでこんな事を？」
ぱぁんぱぁんぱぁん頬が叩かれる往復ビンタだ。『色欲の魔女である貴女を、将来売春婦にさせない為です。』
少女は涙を流しガタガタ震えている。「は、はい」

シャツを脱ぎブラジャーを外す。たゆんたゆん。年にしてはかなり大きい
半ズボンを脱ぎ下着を抜き取る大きい健康美あふれる褐色の尻が現れる。全裸になりベッドの上に寝て脚を広げる。黒々とした陰毛のジャングルがある。それにシェービングクリームをすり込まれる。そして剃刀で処理される上から下へと刃が走る。そしてお湯を股間にかけまたシェービングクリームをすり込み今度は下から上に刃を動かす。そして陰毛は処理されツルツルになる。

しばらくぶりに童女にかえる。
やや黒ずんだ性器が見える。「貴女これは何ですの？隠れて手悪さをしていたのですね」図星だったが「そ、そんなことした事ありません」「うそおっしゃい！」手にもった鞭で机をたたく
「週に一度位・・・」本当は毎晩消灯時間後パンツの中に手を突っ込んで弄り回していたのだ。

「ほ、本当よぉ信じてよ・・・」本当は毎晩消灯時間後パンツの中に手を突っ込んで弄り回していたのだ。年頃の娘が思い描く素的な少年に抱かれる夢想をしながら。
「あたしそんなハシタナイ娘じゃないよ。オナニーなんて悪い事してない！」

「汚らわしい！！！！分かっているのですよ！毎晩毎晩いえ時間さえあれば股間をいじくりまわしているのを！多少の事なら大目に見ますがあんまりに度をこしています。やはり貴女は色欲の魔女よ！諸婦予備軍よ！」確かに隙あらば股間をイジクリまわしてイタの事実だ。

全裸のEは係員達に力ずくでベッドに括りつけられる「やぁ〜〜！やめてぇ」

「貴女のしつっての通りこの孤児院では貴女のような淫乱な娘は追放です。その前に罰としてそして魔女として覚醒しない様に、クリトリスを切り落とします。」
Eは泣き喚きながら「いやー！魔女ってなにぃ？
許してあたしぃ、いい子になるからもうオナニーなんかしないから

ゆるしてぇー！！！」激しく抵抗するが小娘がだいの数人に押さえつけられてどうする事も出来ない。

係り員達に力ずくでベッドに括りつけられる「やぁ〜〜！やめてぇ」消毒液を性器にかける。土手高の下付きこんもりとした女の部分。ラビアがだらしなく飛び出している。そして肉ヒダの合わせ目にかなり大粒の真珠が皮を押しのけている。

「これを取れば貴女は、魔女に、娼婦に、ならずにすむのよ！普通の女の子になるのよ！！」

少女は叫んだ「意味が分かりません」

少女は知っている。理由は単純明快で身体を売っている娘達はは貧しいから。だが周りの人たちの心には届いてないようだ。宇宙人に捕まって実験されるような気分だ。ワケが判らない。理解不能の状態は恐ろしい。何故こんな馬鹿な事を？

クリトリスがあろうと無かろうと来年の今頃は自分はゴーゴーバーのステージで良くてきわどいビキニを着て踊っているだろう。場合によっては紐のようなパンティだけのトップレスである嫌だが覚悟は出来ている。

出来れば大勢の前でフルヌードで踊る店で働く事になるのだけは避けたい。

口にタオルを押し込められる。舌を噛まないようにするためだ。それに売春するのならせめて快楽だけでも味わいたい。好きでもない男に大事な貞操を売るのだせめて快楽だけでも・・・。

Ｅは泣き喚きながら「いやー！許してあたしぃ、いい子になるから

もうオナニーなんかしないからゆるしてぇー!!!」激しく抵抗するが小娘がだいの数人に押さえつけられてどうする事も出来ない。

「では、はじめます」股間に消毒液がかけられる。そしてピンセットでクリトリスをつまみ上げる。「ひっ!」痛みにEはうめく。

そ・し・て。

ナイフがクリトリスにあてがわれる。金属の冷たさが陰核神経をつうじて伝わる。一気に力がこめられて刃が敏感な神経の塊の部分を切り裂いていく。

ぱつん!糸が切れるような音。

鮮血が弧を描く様にしてほとばしる。

「ぎゃ===ぁーーーー」

あたりに少女の断末魔の悲鳴が聞こえた。

ついに切り取られたのだ!!

そしてラビアも引っ張り切られる。

2度目,

3度目の悲鳴が響き渡る

「くぁwsでrftgyふじこlp;@」

係員により止血がされる。
少女の可愛らしい顔は大きく目を見開き涙をだらだらたらしている。
全身はぶるぶると痙攣しそして白目を剥いて気絶した。

少女が気がついた時竹編んだベットにうつ伏せに寝かされていた。
蒸し暑さから割礼直後の身体を守るための風通しの良い部屋である。
股間には焼けるような痛みが・・・。褐色の肌と対比される白い包帯がフンドシのようにまかれている。「お母さん・・・」包帯に紅いシミが・・・。

それから後傷が完治してからさらに一生性交できないように外科手術で性器を封鎖された。

　Eは孤児院の前にわずかな手荷物とともにほうりだされていた、そして迎えが来て強制的にまるで監獄のような女子修道院に入れられた。本来ならそこでEさんは生涯処女のまま過ごすはずだった。だが彼女は諦めなかった。何とかして脱走した。

都会の歓楽街の前にわずかな手荷物とともに彼女はたたずんでいた。
短いスカートが強い風でめくれた、中に下着は何故か着けていない。
大きい安産型のお尻と、クリトリスもラビアも失った性器が外気に直接ふれる

ソレカラ

一年後、夜の歓楽街にある怪しげなゴーゴーバー、露出度過剰なビキニの水着を着た女たち。その中にEさんは働いていた。

記者「それって本当なんですか？？」私はにわかには信じられなった。その様はあまりに馬鹿げた話だ。

この国の売春の問題は貧困と格差が最大の原因なのは様様な統計資料からも明らかだ。それをなんて事を・・・。

私は雑誌記者だ。ふだんから割りと硬派なものからかなりどうでもいい話まで書いている。かなりの雑食系だ。

経済関連の取材に来てしばらく前から滞在している。取材は一通り終わりメールで本社にすべて送った、それなので骨安めにかなり妖しい歓楽街にくりだした訳だ。

気まぐれで新規開拓しようとして初めて行く店に入る。それは大正解だった。

すぐにかなりの美少女を発見した。白いビキニの水着を着ている。

実に私好みだ。髪は肩よりだいぶ長い、顔は童顔なのにスタイルもいい。迷わず彼女を指名することにした。近くにいた全裸同然の女店員にチップを渡して頼んだ。

眼の前にきた彼女はとても可愛いらしかった。褐色の肌に身に着け

ているのは毒々しい色のシースルーのベビードールにVフロントでTバックの下着だ。着替えたようだ。

色々話をした。「君は元男の子、なんて事は無いよね？おち○ちん生えてたけど取っちゃいましたなんて事」と冗談めかして聞いた。彼女は一瞬真剣なギョとした表情を浮かべたが直ぐに苦笑しながら「あははは っ！ワタシ、オンナノコネ！オ○ンチンも、キン○マもハジメカラナイよ！」

「オキャクサン、ソウイウコミに　騙されたコトアルのね？？」「う、うんまぁ・・・・」「ウン、ワカラニヨネぇ、でもオキャクサンとハナシテルととても落ちｔくしタノシイです。」

「ダイジョブ、ワタシ、オンナのコだよ！」私がふざけて「え～～本当かな～～～？」と言いながら彼女の乳房を鷲ずかみにした。餅のような弾力がある「キャーオキャクサンにHぃ～ワタシ、テンネンね！」

彼女は少し内股になり両手を申し訳程度の布で覆った股間に乗せ恥じらいに頬を染めた。年は思ったよりも幼いようだ「シンパイしなくてもダイジョブよ！ワタシのアソコはテンネンよ！オチン○ン取って穴ホッテナイヨ！」「ダカラ、オキャクサンのオチ○チンとっても満足スルネ！シロいゼリーイッパイ、イッパイ出すね」「つまり店外デートＯＫですね？」と訪ねると「ＯＫヨ！！」満面の笑顔で答えた。

；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；；
；；；；；；；；

店外デートにさそい、そしてホテルの一室で彼女から聞いたことである。

私が一応雑誌記者であること話したら教えてくれた。どうも世界にむけて記事を書いて欲しいらしい。

Eさんは「ホントウデスヨ。」といいダブルベットに横たわる。「ワタシノ　パンツヌガセル　ワカリマス」「BAD　ワタシ　オンナノコ　ミセル　ハズカシイ」娼婦とはいえEさんは年頃の女の子らしく顔を赤くしてなみだ目で私をみている。

半信半疑で私は彼女の下着を抜き取る。

Eさんはすぐに両手で股間を押さえる「ミ、ミナイデハズカシイヨ、ライトケス　オネガイ」「暗いと分からないよ」両手をおさえて足を広げる。

「あぁぁ、ママぁあ！」両手で顔を覆う

Eさんの性器にはクリトリスとラビアが無かった、鋭利な刃物で切り取られた後がある。彼女の話は事実だったのだ。

そして彼女からその孤児院でのおそるべき体験をはなしてくれた。私はカメラをまわし続けた。それからこの取材に没頭した。数ヵ月後、これを記事にして公開した。

その結果、その孤児院は警察に踏み込まれた。大半の者は障害事件で逮捕された。さらに酷い処置のために命をおとした人達もいたことがわかった。ただ寺院のほうは、もののけの空だった。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーー

彼女の勇気ある告発でとりあえずの落着はした。そして彼女は今・・・

ガチャリ、自宅の扉を開ける。玄関先にＥさんはいた。教えたとおり裸にエプロンそして頭にネコミミのカチューシャをつけている。
「おかえりなさい、アナタ！」美しい鈴の音のような声幸せそうな笑顔で私を出迎えてくれる。

　医療技術の進歩は凄い。わが国の先端、再生医療により彼女のクリトリスとラビアは完全に再生されたのだ。
初めてあった晩のインタビューをした後彼女を抱いた・・・。今までにのべ数百人以上の男を受け入れてきた彼女の性器は確かに名器だった。
その後現地で秘密裏にその孤児院の取材をしていた。私は彼女Ｅさんに店をやめさせ私の家に住まわせた。事実状の同棲だ。私は彼女に溺れた。

彼女を連れて帰国した。そして陰核と小陰唇の再生処置をおこなった。

その際に医者にお願いしたことがある。それはわきの下と陰毛の永久脱毛と処女膜の再生だ。

Ｅさんは泣いた

性器が完全に再生された喜びで！。

そしてその日の夜、

今彼女は期待と不安に満ちた顔で全裸で両脚をＭ字に曲げ私のペニスを今か今かと愛液を溢れさせて待ちわびている。「ご主人さまぁ～～～、早くソノ、おちん○んでワタシを奴隷にしてぇ～～！」

私は有無を言わさずにペニスを突き入れた。愛液で十分に濡れた膣は簡単に奥まで突入できた。

「あずぇ～～～～！！！」「い、痛い！痛い！痛い！～～～～！」

再生した処女膜が破られたのだ！

私が動けなくなると「ガンガン動いてぇ～！痛いけど幸せなの！中にだしてぇー」そして・・・。

≪あの連中がなぜ彼女に割礼をしたのかが分かるような気がする。いや理解した！≫

確かに、一緒に暮らしていてかなり淫乱な娘だという事は解っていた。どんなプレイもＯＫだった。

割礼を施したのは間違いなく正解だ彼女はまさに淫乱な娼婦ぅ、いや『色欲の魔女』だ。

『‥@；pぉ喜寿hygtfrですぁq^@ーp0ォ9位8ウ7y6t5r4え3‥・；。l、kmjんhbgvfc』

ベッドの上で私の腰にまたがり、騎乗位で激しく腰をくねらせる彼女の表情は悪魔の様な表情だ！

涙を流し、この世の者とは想えない奇声と雄叫びあげ、涙を流し荒い息ずかいと口から涎をだらだらたらしている。
私は何度目か解らない射精を強要させられる。

私の目には彼女の無毛の性器が見える。確かに再生されたのは大粒の陰核だったのは覚えている。しかし今私の目の前に見えるのは男性器並に巨大なものに成長している。頭にヤギの様なツノが見える背中にはまるでカラスのような羽がある。之は夢なのか現実なのか？？？

（後書き）

どうしよう適当にタイトル考えたけど、魔女で割礼の話考えようかな